

## とうと 陶都林材クラブ

所在地 岐阜県瑞浪市上平町5-5-1 陶都森林組合内

設立 平成10年3月17日

会員 男25人 法人4社 年齢 27歳～55歳 平均45歳

### 主なプロジェクト

森林所有者への間伐講習会(間伐及び利用間伐の推進)

一般市民への森林・林業教室(森林への興味を持ってもらう)

## 「過去」から「未来」へ つなげよう陶都の森

### 1. 地域の概要と問題点

私たちの活動エリアである東濃地域は岐阜県の南東に位置し、多治見市、瑞浪市、土岐市の3市からなります。西はJR中央線で名古屋市まで30分の通勤圏内に位置し、東は銘柄材「東濃桧」の主産地として有名な恵那・中津川市に隣接しています。そのため3市の人口約22万人の多くが名古屋経済圏に依存した都市型生活や土地利用をしています。東へ行くほど農地や森林が多い中山間地を形成しています。

この地域では、古くから産出される豊富な陶土により「織部焼」に代表される陶磁器の産地として栄え、現在もブランド陶磁器として生産を続けています。しかし、陶土の露天掘りや窯焼き用薪炭材採取のための森林乱開発により、はげ山が大規模に広がり土砂災害を起こし、昭和初期から国、県、市による治山事業などにより森林の回復が行われました。3市の人工林の約半分がマツ人工林なのははげ山復旧事業による名残です。しかし、このマツ林もマツクイムシ被害により衰退をたどり、手入れのされない二次林が全体に広がっています。そのような中でも、恵那・中津川市に近い瑞浪市や土岐市南部ではスギ・ヒノキの人工林が比較的多いのですが、材価の低迷で山に関心

を失った森林所有者がいて間伐など保育が行われない森林があちこちで見られます。



山肌がむき出しの陶都の森(昭和29年頃)



現在

## 2 .グループの結成

管内3市1町に細々と活動していた林研グループを統合し、クラブ員相互の連絡調整を図り森林・林業・林産業に関する技術の研鑽に努め自主的な活動を推進することにより、当地方の森林・林業・林産業の発展と後継者育成に貢献することを目的として「陶都林材クラブ」を設立しました。

また近年では上記で指摘した 間伐に対する森林所有者の意識改革をすること、 手入れされない都市近郊林の整備に関する地域住民の意識改革をすることを具体的な目的として活動しています。会は現在個人会員25名、法人会員は4社から構成されています。

また、会の特徴は、森林組合と林業事業体の技術者が主な構成員であること、年齢層は、20代後半～50代半ばまでと若いグループであることです。

## 3 .活動状況

### 森林所有者を対象とした間伐講習会

#### (間伐に対する森林所有者の意識改革のため)

平成19年度からの取り組み活動回数は、2カ年間で計5回実施しました。平成19年度は、「定性間伐と列状間伐の特徴」「高密度路網による木材搬出」をテーマとして2回開催しました。参加者は、管内の個人森林所有者、財産区、生産森林組合などで合計34名の参加者がありました。

また、平成20年度は「高性能林業機械を使用した低コスト作業」「安全なかかり木処理の方法」をテーマとして3回開催しました。一般の参加者は、多治見市(54名)、瑞浪市(41名)、土岐市(30名)総勢125名でした。高性能林業機械(スイングヤーダ、ハーベスタ)を使用した伐倒、集材、造材の実演、及びかかり木の安全な処理方法をフェリングレバー、チルホールを使用し参加者に指導し実際に体験をしてもらいました。



間伐講習会

間伐講習会は、国の補助事業「吸収源対策森林施業推進活動緊急支援事業」を活用し実施しました。

### 次代を担う子どもたちへの森林・林業教室

#### (手入れされない都市近郊林の整備に関する意識改革のため)

- 多治見市新任教員研修支援(間伐体験指導)
- 瑞浪市新任教員研修支援(間伐体験指導)
- 池田小学校PTA活動支援(マイ箸作り)
- 南姫中みどりの子ども会議活動支援(広葉樹整備指導、きのこ栽培指導)
- ヒノkidsらんど(間伐見学、鉛筆立て作成)

#### 市民などへの森林・林業PRなど

- 土岐川グリーンベルト(国交省主催)



新任教員研修



親子林業教室

- 農業祭でのPR

毎年各市で開催される農業祭などのイベントに積極的に参加して、一般市民に対し木に触れることにより木の良さを体験してもらうために間伐材丸太切り、切った丸太で鉛筆立てなどを作成することにより森林・林業のPRを実施してきました。



丸太切り競争

- 県内外林業グループなどとの交流

#### 4 .地域社会に及ぼした影響

森林所有者を対象とした間伐講習会を実施した結果

- 講習会に参加した森林所有者3名が間伐を実施しました。
- 利用間伐に対する関心や意識が高まり管内の出材量が増加しました。
- 作業路に対する意識の変化も表れ森林所有者が作業路に対する必要性を認識し、開設相談、要望が増えました。

一般市民への森林・林業教室を実施した結果

- 木を伐ることは悪いことだと考えている子どもが多い中、間伐の必要性を説明し理解してもらいました。また、教員に対する研修でも森林、林業、間伐の必要性を理解してもらいました。

#### 5 .今後の取り組み

私たちは『森林施業のプロ集団』であり、持っている知識や技術を生かし今後とも森林・林業の活性化に少しでも役立てたいと考えています。

将来的構想

- 活動の広域化.....学生、NPOやボランティア団体との交流、協働作業
- 森林整備推進.....森林所有者への間伐啓蒙（人工林整備、里山整備）
- 後継者育成.....平成21年度からは林業後継者育成・確保支援事業を活用し、小学校PTAなどと連携した青少年を対象に森林・林業教室の開催

- 森林技術者の育成

私たちは都市近郊林で活動しており、間伐の必要性や森林の大切さを多くの人に伝えることを念頭に置いて取り組んできました。活動を通じてもっともっと森林・林業のPRをしていくことは非常に大切なことだと感じました。

材価が低迷しているなかで間伐を進めていくことは難しいことかもしれませんが、手入れをすれば森林も良くなり材質も優良なものができるということをふまえ、必要な作業や知識を森林所有者に伝えていくことが今後の大きな課題と考えています。

また、活動を通してクラブ員が仕事を得ることも重要であると考えています。

